



ススキ

# なかごころ (那珂心)



福岡市立那珂小学校  
校長 池田 彰治

## 後期が始まりました ⇒ 校長先生からの宿題にもチャレンジしてほしいな。

10月12日(月)、全校テレビ放送で後期の始業式を行いました。頭と心と体をバランスよく成長させるための自分のめあてや目標を明確にもってスタートさせ次の学年に向かう残り半年間を充実させることが大切であると話しました。

この日の放送では、3～5年生へ、心を成長させるための『校長先生からの宿題』を出しました。「きまり、ルールは必要なのか?」ということについて、意見文を書くというものです。多くの那珂っ子に積極的に取り組んでほしいものです。持って来てくれるのを待っています!

## 「修学旅行は終わらない」～ 体験的に学んだことを残り半年の姿と言葉で～



【5, 6人だからこそ主体性が生まれました】

10月13日(火)、1泊2日の修学旅行を終えた6年生の顔には、大きな喜びと満足感が表れていました。感染症拡大の影響で、全国的にもこの行事を取りやめる学校が多くある中、福岡市は対策を十分にとった上で実施可との方針が出され、本校も綿密に計画を立てて臨みました。1日4回、計8回の検温等、前例のない対応に子どもも引率職員も大変な思いをしましたが、無事に終わることができ、安堵しています。

子どもたちは、あいさつ、ルール・マナーを守った行動など、『那珂小という見えない看板』を背負った最上級生としての素晴らしい姿を見せてくれました。

印象的だったのは、長崎での平和についての集会。例年は学年全体での実施でしたが、今回は、各グループでのフィールドワークの中に自分たちで計画して組み込み、それぞれが平和公園または原爆落下中心地で行うことにしました。自分たちで進め、自分たちで考えた平和宣言を唱え、自分たちで千羽鶴を捧げ、黙とうをする——。あるグループが行っている時、地元の方らしき車椅子に乗ったお年寄り数人と付き添いの方が目を細めてずっと見ておられました。最後に皆さんで拍手をしてくださったのです。

14日(水)、まだ疲れがとれていないだろう6年生に、「気がつけば、皆さんが小学生でいられるのもあと半年。卒業に向けてどのように過ごせばよいのかをいつも考え実行することが大切です。その手がかりは、この旅行の中にたくさんあります。思いやり、自覚と責任、平和、言葉遣い、友達のよいところ見つけなど。この2日間で体験的に学んだこれらのことを生かす……つまり『修学旅行は終わらない』という意識で残り少ない小学校生活を送ってください。また、旅行に行くことができたのは、おうちの方をはじめ、実に様々な方のおかげです。その意識を自分の姿と言葉で表すことで、倍返し之恩返しをしてください。」と話しました。

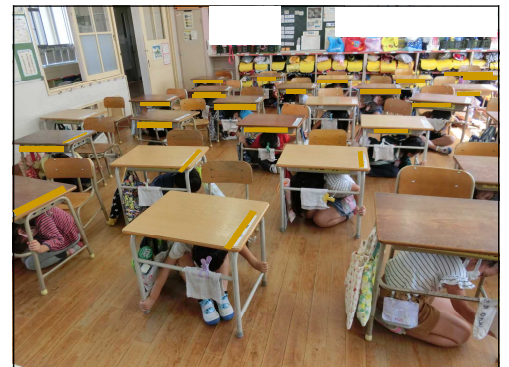
## 命を守る取組～ 避難訓練週間～

10月1日(木)から8日(木)までの1週間、地震とそれによる火災を想定した避難訓練を行いました。例年、全校一斉に実施していますが、今回は、感染症対策として密集を避けるために、各学級ごとの取組としました。

まず、教室での事前指導として、スライドを使って、避難する際の約束、避難経路などを確認しました。実際の訓練では、緊急地震速報を聞き、素早く机の下に隠れてしばらく身を守り、その後、給食室から出火したとの想定で運動場へ避難しました。

初日は1年生。初めての訓練でしたが、合言葉として指導した『おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない』を守って真剣な表情で取り組むことができました。

家庭でも、いざという時に自分で判断して適切な行動ができるように、このような学校での体験と学びも生かしながら「自分の命は自分で守る」という意識で危険回避能力を高めることは大変重要です。



【机の脚の対角を持って机を固定します】